

わがままな **コピー** と  
がっこう ともだち  
**学校の友達**

ほんとう しんゆう  
7巻：本当の親友とは



文 さくらい ゆうせい  
絵 うすい ゆみこ

ここは <sup>おや まも</sup>親が守ってくれなかった <sup>ことり</sup>小鳥たちが <sup>あつ</sup>集まる  
<sup>ちい</sup>小さな <sup>がっこう</sup>学校。 <sup>こども</sup>子供たちは、 <sup>じぶん</sup>自分で <sup>い</sup>生きる <sup>ちから</sup>力を  
<sup>み</sup>身に <sup>つ</sup>付けなければなりません。

<sup>しき</sup>ラムの <sup>ふる</sup>指揮で、 <sup>がっこう</sup>古くなった <sup>いえ</sup>学校や <sup>しゅうり</sup>家の <sup>しゅうり</sup>修理を  
<sup>きょうりよく</sup>協力して <sup>おこな</sup>行うこと <sup>やく</sup>約 <sup>ねん</sup>1年。  
<sup>こども</sup>子供たちは <sup>しんゆう</sup>親友となり  
ケンカも なくなりました。



ギーコ ギーコ!

カンカンカン! コンコンコン!

ぶる〜ん ブルブル!

ぶる〜ん ブルブル!

『お〜い! サニー、またモノマネでサボってるな!

みんなはダメさせても、俺様の目は ダマせないぞ。

大体なんだよ、その道具は!』



「兄貴、よく気が付いたな!

これは最新式のチェーンソーっていう代物だぜ!』

『ちょっと俺様にも やらせてくれよ!』

「ぶる〜ん ブルブル! ぶる〜ん ブルブル!」

『お〜〜、これはヤバい! 血が騒ぐぜ!』

「よし、兄貴! サニー号の後ろに乗れよ!」



「ピロリロ ピロリロ

ぶる～ん ブルブル!

ぶる～ん ブルブル!」

『ちょっとアンタたち、何してんの!!!』

「おっ兄貴! かわいい姉ちゃんが 来ましたぜ!

『コラ! 仕事をサボって こんなの作ったの?』



「学校の修理は もう終わったよ!

それよりこの木製バイク! カッコイイだろ～

動力は オイラの翼だけど、本当に走るんだぜ!」

『あら、確かにカッコイイわ!』

「おまえは 話が分かるな!

モモには あのマシンを くれてやる」

『えっ! 私にも 作ってくれていたの?』

「あたぼうよ! 全員のマシンが あるんだぜ!」



「どうだ！ オイラが バトラーと <sup>ひそ</sup>密かに作った  
マシンたちだ！」

すると コビーが <sup>い</sup>言いました。

『サニー！ もしかして僕が頼んだ、<sup>あし</sup>足が悪くても  
飛び立てるマシンも <sup>つく</sup>作ってくれたの？』

「もちろん！ みんなのマシンもあるんだぜ」

<sup>がっこう</sup>学校のみんなは、<sup>こえ</sup>声をあげて<sup>おおよろこ</sup>大喜びです。

ところが ラムだけは、<sup>う</sup>なんだか浮かない顔<sup>かお</sup>を  
しています。すると <sup>ごうちょうせんせい</sup>校長先生がきて <sup>い</sup>言いました。

『どうしたラム？ せっかくの<sup>もの</sup>乗り物<sup>もの</sup>が  
<sup>き</sup>気に入らなかつたのかのう』

「いえ・・・そうじゃないんです。

<sup>わたし</sup>私、<sup>かな</sup>悲しいんです」

『<sup>がっこう</sup>学校の<sup>しゅうり</sup>修理も<sup>お</sup>終わり、この1年間で <sup>みんな</sup>みんなも  
<sup>なかよ</sup>仲良くなったのに どうしたのじゃ』



ためしよみ

は

ここまでです